

港北力発見★通信 Vol.8

港北区の元気のもと発見！ 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸町26-1 Tel.045-540-2247 Fax.045-540-2245
港北区地域力発見プロジェクト事務局 地域振興課地域力推進担当 福祉保健課事業企画担当



菊名ハロウィン・ウィーク

「地域のチカラ応援事業」として活動している団体の紹介

菊名の未来を考える会

10月27日から31日まで、菊名の町はハロウィンムード一色に染まり、お菓子を手にした子ども達が、町中にあふれました。地元の150以上の店舗が、訪れた子どもにお菓子をあげたり、イベントに協賛・協力したほか、特別企画として、特設ステージでコンサートやコンテストも実施されました。

ステージは東横線菊名駅改札口徒歩3秒!という抜群の場所に設けられたので、駅を利用する方のほとんどが足を止めて、吹奏楽の演奏やダンス、お囃子を楽しんだり、ポスター展示や仮装コンテストを盛り上げていました。菊名が生んだご当地ヒーロー「スタージャン」も登場しました。

このイベントの仕掛け人、「菊名の未来を考える会」漆原会長は、「今後も「繋がり」をテーマに、参加型のイベントを通じた活動を続けたい!」と意気込んでいました。



ひととゆめのネットワーク

区内の地区センター等で子ども達を対象とした「こどもおもしろ科学教室」を行っています。身近な材料を使った様々な科学実験で、日常的に起きる現象に科学への興味を見出す『科学大好き青少年』を育てます。参加した子どもたちと家族に驚きと感動を与え大人気で、引き続き開催希望が寄せられています。

備長炭、果物や風力を使った発電、光の不思議等メニューも豊富。日々新しいメニュー開発にも力を注いでいます。子どもたちが無心に実験に打ち込む姿を見るのは私たちの喜びです。

一度開催・参加して見ませんか？ 新たな世界が拓けること間違いありません。

HP http://www.geocities.jp/hito_yume_net/

または で検索



太尾宮前地域まちづくり運営協議会

11月4日(日)、大倉山駅から新羽方面に向かって10分ほど歩いたところにある観成院大倉山観音会館にて宮前・オーリーブ文化祭が開催されました。

このイベントは、フリーマーケットあり、出店あり、出し物ありのまさに文化祭! 特に出店では実演販売として、その場で打ったお蕎麦を販売するという手の込みよう。お昼時に行列ができるのも頷けます。さらには、イモ煮販売や野点(のたて)実演まで行われ、道行く人が、思わず足を止めてしまい、そして踏み入れてしまうような場となっていました。

一方、会館の中は、鉄道模型のNゲージ展示やクリスマス

スリース作り、ヴァイオリン・フルート・キーボードの演奏、花笠音頭の踊りなど、観て歌って踊ってのお祭り騒ぎ。一度会館の中に入られた人々は中々外には出てきません。

このイベントを主催した「太尾宮前地域まちづくり運営協議会」の秋本会長によると、「3.11の震災を受けて、地域においてお互いに顔の見える関係作りが求められています。この文化祭も、地域における新旧住民や世代を超えた交流の一助となれば何よりです。」とのこと。この機会に知り合った地域の隣人も多いのではないのでしょうか。



振り込め詐欺撲滅大作戦



後を絶たない振り込め詐欺の撲滅に向けて、被害に遭わないための予防策をなどについて、落語と講演による啓発活動が実施されました。

この啓発活動は、区役所のほかに港北警察署、ボランティアグループもみじの会、新吉田連合町内会、新田地区センターの協力により、新吉田地区内の北部町内会館、新田地区センター、東町会会館の3会場で実施されました。

アマチュア落語家、湊家恋路(みなとや こいじ)さんの創作落語『恋路の振り込め詐欺入門』を振り出しに、港北警察署生活安全課の署員から詐欺にあわないための二つの極意、

- ①知らない人に現金を手渡さない(息子の上司や同僚、弁護士と名乗る人が現金を取りに来てても手渡さない)
- ②知らない人に振り込まない(本人名義の口座以外には振り込まない)

「この二つを守れば振り込め詐欺にはあいません」と自信を持って話をしてくれました。新吉田郵便局長さんからは、実際に振り込め詐欺の被害にあいそうになっているお客さんを助けた窓口での事例を紹介してくれました。

笑いあり、驚きありの1時間半でしたが、皆さん真剣に聞き入り熱心にメモを取っていました。



難病に関する取り組み

～同じ病気の仲間の輪を広げよう～

港北区では、難病である膠原病(こうげんびょう)と神経系「パーキンソン病、脊髄小脳変性症(せきずいしょうのうへんせいしょう)、多系統萎縮症(たけいとういしゆくしょう)」の疾患の患者さんを対象に、交流会を実施しています。それぞれの交流会では、お互いの症状や悩み等を共有したり、講師を招いた講習を行っています。

それぞれの交流会に参加していただいているお二人。小川さんが発行している「ゆうこ新聞」、滝井さんが代表である「きぼうの輪」の活動についてご紹介します。

ゆうこ新聞

小川さんは膠原病の1つである全身性エリテマトーデス(SLE)を患いながら、手作りの新聞である季刊誌「ゆうこ新聞」を発行しています。

病気や障害がある人たちにホッと一息、楽しんでもらえるような、患者さんの立場にたった情報を届けたいという思いで始めたとのこと。「ゆうこ新聞」という名前にしたのも、カッコいい名前ではなくて、親んでもらえるものにしたかったからだそうです。内容は、100人を超える体験談をアンケート調査し、「心に残るお見舞い」を特集したり、レディースクリニックや歯科医に取材したもの等、多岐にわたります。2010年秋から2012年秋までに9号が発行され、今では北海道から九州まで、500部以上発行しています。また、区役所1階の情報コーナーにも置いています。

皆さんも是非
読んでください!



小川ゆう子さん

きぼうの輪

滝井淳一会長からのコメント

パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症の患者さん、ご家族が有志で作っている、神経難病の友の会です。

まだまだ知られていない神経難病の病名を突然突きつけられ、日々進行する上に「原因不明・治療法なし」と宣告されて絶望の淵に立ってから18年、少しでもこの病気の知識を皆で分かち合い、日々の闘病上の知恵や工夫を交換しようと思ってきました。現在会員は43人。専門医の先生方、港北区福祉保健センターのご指導と港北区社会福祉協議会のご支援の下、講演会や交流会で情報を得たり、勇気をもったりしています。年に6回発行する会報には、最新の医療情報、会員の体験談等を取り上げています。年会費は1000円です。入会は☎045-842-8464 滝井淳一まで。

【難病事業に関する問合せ】

港北福祉保健センター 高齢・障害支援課 障害者支援担当まで

☎ 540-2321 FAX 540-2396

港北ほくほくフェスタを開催しました!

福祉保健の祭典「港北ほくほくフェスタ」を、10月26日(金)に港北公会堂で開催しました。第1部の港北区社会福祉大会では社会福祉功労者の表彰がありました。第2部の区民フォーラムでは、「ひっとプラン発!ネットワークのちから」をテーマに、沖縄大学人文学部福祉文化学科教授西尾敦史先生による



コーディネーターの
西尾敦史先生

講演と、障害児の放課後の余暇支援を行う「しろさと地区放課後プラザ」、多世代交流イベントの実施や地域の情報媒体を発信する「樽町ふれあいのつどい・イベントカレンダー」、地域への愛着を深める取組として地区のキャラクターを作った「高田地区たかたん」の事例発表とディスカッションを行いました。

事業に新たな人材をとり入れる方法やボランティア同士のコミュニケーションの大切さ、活動を広げていくための工夫など、パネラーの皆さんからたくさんのヒントが紹介されました。

その他にも、港北区13地区の「ひっとプラン港北」地区計画や地域で行われている活動のパネル展示、小・中学生から作品を募集した社会を明るくする運動標語コンクールの優秀作品の掲示、港北区ボランティア連絡会によるバザーや模擬店など盛りだくさんな内容で、多くの皆さまにご来場いただき、大盛況に終わりました。



パネラーの皆さん

地域のチカラ応援事業・中間報告会

イキイキ! 地域活動交流会

今年度活動している団体が一堂に会し、11月10日に中間報告会と交流会が行われました。

中間報告会では、初めて発表の舞台に立った3団体を含む7団体が、バラエティに富んだ活動を報告しました。

交流会は、プレゼンテーションの緊張から解放された皆さんが、積極的に名刺交換したり、今後はコラボしていきましょう!と意気投合していました。

3月16日には、1年間の取り組みの成果が発表される、最終報告会と交流会が慶応大学で実施されます。乞うご期待!



2年後に新幹線・新横浜駅は開業50周年!

新幹線・新横浜駅が開業したのは東京オリンピックが行われた1964年。今ではオフィスビルが立ち並び多くの乗降客でにぎわう街です。開業前から街の発展とともに育ってきた、新横浜町内会の臼井義幸(うすいよしゆき)さんに当時の街の様子や思い出をうかがいました。

駅周辺はもともと水田地帯で、区画整理がされてからもしばらくは水田が残っていました。そこでカエルやメダカを捕まえて遊んだり、空き地にプロレスやサーカスが来ると観にいったというのが開業当初の思い出です。



臼井義幸さん

新横浜が発展する転機は何度かありました。

1985年 横浜市営地下鉄の延伸

横浜線が東神奈川駅止まりだったため、横浜駅まで乗り換えずに行けることは画期的でした。

1989年 横浜アリーナの開業

大規模屋内施設があまりなかった当時、こけら落とし公演が美空ひばりに決まっていたこともあって、期待も高かったです。しかし美空ひばりが体調不良のため、代わって公演したのは松任谷由美でした。

1998年 横浜国際総合競技場(現日産スタジアム)の完成

「かながわ・ゆめ国体」のメインスタジアムであり、この国体を迎えるにあたって新横浜を盛り上げようと新横浜町内会が始めたのが「新横浜パフォーマンス」。最初は周辺企業の文化祭として行われていましたが、今では秋の風物詩としてお馴染みになっています。



新幹線未着工(1962年3月以前)

【新横浜こぼれ話・その1】バス停『ホテル前』

環状2号線沿いの新横浜プリンスホテル前のバス停「ホテル前」の由来を知っていますか? プリンスホテル前だからと思っている人が多いと思いますが、実は今はなくなってしまった、プリンスホテルの道の向かい側にあった新横浜ホテルの名残です。



【新横浜こぼれ話・その2】大阪から来ました!?

認知症の高齢者が、電車やバスに乗って徘徊する可能性があることを知っていますか? 港北区では、年間約150人の高齢者が警察に保護されています。区内には新横浜駅があるため、新幹線を利用して愛知、大阪など遠方から徘徊した高齢者も保護されているのが特徴です。港北区役所の高齢・障害支援課では、道に迷われた高齢者が早く自宅に帰れるように「かえるネット」という取組を行っています。徘徊する可能性のある方を事前に登録しておくことで、警察などで保護された場合に身元確認に役立っています。



新幹線工事中(1962年頃)